

本年度業界モデル事業参加企業と発表者

化粧品業界

- 日本化粧品工業会
- 株式会社コーセー
- 株式会社 I - n e
- 花王株式会社
- 牛乳石鹼共進社株式会社
- 株式会社資生堂
- 株式会社ファイントウデイ
- 株式会社ポーラ・オルビスホールディングス
- 一丸ファルコス株式会社

日本化粧品工業会 田口 陽子



参加企業・団体の紹介



日本化粧品工業会 (JCIA)

■ 会員企業8社



株式会社 I - ne



一丸ファルコス株式会社



きれいをこころに 未来に

花王株式会社



株式会社資生堂



ずっと変わらぬ やさしさを。

牛乳石鹼

牛乳石鹼共進社株式会社



株式会社ファイントウデイ



株式会社ポーラ・オルビスホールディングス



株式会社コーセー

- 日本化粧品工業会会員が、カーボンフットプリント(CFP)算定に一步を踏み出せるようにする
 - ✓ 業界で統一した基準/ガイドラインが必要であり、業界全体に広げていくことは重要
- 製品のライフサイクル全体での環境負荷が「見える化」され、化粧品を使う消費者が環境配慮型製品を意識するきっかけとなり、持続可能な選択が業界全体で促進される世界を目指す
 - ✓ 啓発活動を通して会員の意識の底上げを行う

ルール策定のステップ

目指すゴールの確認

中期的目標の設定と、足元で着目すべき範囲(本検討のゴール)の明確化

算定ルールの策定

消費者・事業者・国際/国内ルール等を踏まえ、どのような方向性が考えられるか、具体的にはどのようなルールにするのか

実現に向けたステップ

どのような手順と時間軸でCFPを実現していくか

■ 算定ルールの策定 詳細

調査、ルール項目・議論性の検討

既存ルールの調査

シャンプーPCR案※1をドラフト
既存ルールを参考に調査を実施



ルールの項目案の検討

既存ルールの項目を参考にルール項目を精査

議論性の分類

議論性の高・中・低を分類
⇒ ルールのたたき台作成

たたき台の議論、草案作成

議論性に基づく検討

議論性が「中・高」のルール項目を中心に、方向性を議論



ルール草案の作成

各項目の集約
⇒ ルールの草案を作成

実証、最終化

草案のブラッシュアップ



実証

現実的に算定が可能なルールになっていることを確認



ルールの最終化

粧工会の確認・方向性承認(サステナビリティ推進委員会)を経て発行へ

※1 シャンプーPCR案:日本化粧品工業連合会2011年シャンプーPCR(Product Category Rules:製品種別算定基準)案

算定ルールの概要

- ルール項目や構成は、日本化粧品工業連合会2011年シャンプーPCR(Product Category Rules:製品種別算定基準)案をもとに、カーボンフットプリントガイドライン(経済産業省・環境省、2023年3月発行)を参考

基礎・共通ルール項目

✓ 総則・目的 III-1

ルールの目的、適用範囲、参照ガイドライン・規格・ルール など

✓ 算定対象 III-2

算定単位(機能単位)、システム境界、対象とするGHG など

✓ 共通項目 III-3

データ収集基準、配分、輸送、廃棄・リサイクル、カットオフ、再エネ証書、カーボンオフセット、バイオマス、マスバランス など

算定方法 III-4

✓ 原材料調達段階

✓ 生産段階

✓ 流通段階

✓ 使用段階

✓ 廃棄・リサイクル段階

- データ収集範囲に含まれるプロセス
- データ収集項目
- 一次データの収集方法および収集条件
- シナリオ
- 二次データ適用項目

検証・報告・活用

✓ 検証 III-5

- 検証の要否・手法
- 検証者の適格性

✓ 算定報告書 III-6

✓ 算定結果の解釈 III-7

- 算定の限界
- コミュニケーション留意点

✓ 継続的な取り組み III-8

✓ 附属書 IV

- 輸送・使用・廃棄物処理シナリオ
- 排出係数照合一覧表 など

- **平易な文章や表現で初めての人にも分かりやすいルール**
 - ✓ 導入初期企業や中小企業でも取り組みやすい算定プロセスの明確化
- **汎用性の高く柔軟な算定ルール設計/整備**
 - ✓ すべての算定者が守らなければならない必須要件と、自由が許される任意要件を明確にする
 - ✓ 代表的な化粧品カテゴリー(化粧水、口紅、シャンプーなど)に適用可能
 - ✓ 輸送シナリオ、使用シナリオ、廃棄物処理のシナリオを設定
 - ✓ 算定結果の用途(NG事項も含む)が明確化
- **将来的な制度化・国際連携を見据えた整合性の確保**
 - ✓ EBS※1やSPICE※2など、先行する海外の自主的ルールとの整合を図る
 - ✓ 整合しきれない部分については、海外のルールとの違いについて明記
 - ✓ 技術・制度の変化に対応できる運用構造を持つ

※1 EBS(Eco Beauty Score Consortium):化粧品・パーソナルケアブランドが、「製品が環境に与える影響」を測定し、消費者に対して透明性の高い情報を提供する環境スコアリングシステム

※2 SPICE(Sustainable Packaging Initiative for Cosmetics):化粧品業界の組織を結集し、持続可能なパッケージの未来を共に形作るという共通の目標に向けて取り組むイニシアチブ

ロードマップ

■ 算定ルール策定を皮切りに、業界としてのCFP人材の育成なども行い、CFPを推進する

Phase	2025年度	2026 ~ 2027年度	2028 ~ 2030年度
ゴール	<ul style="list-style-type: none">日本化粧品工業会会員が、CFP算定に一步を踏み出せる啓発活動を通して会員の意識の底上げを行う	<ul style="list-style-type: none">業界全体で活用可能な実効性のある算定基盤(ルール)の整備	<ul style="list-style-type: none">大手企業だけでなく中小を含めてCFPの算定が普通に行えるさまざまな化粧品のCFP算定に適用できるルールの整備
算定ルール	<ul style="list-style-type: none">算定ルールの文書化と公開	<ul style="list-style-type: none">事例集の作成算定ルールを更新寄せられた問い合わせを踏まえ、算定に関するQ&Aリストを作成	<ul style="list-style-type: none">EBSなどグローバル動向や基準への対応国内算定ルール改定へ対応
その他の取組事項	<ul style="list-style-type: none">算定ルール報告会開催	<ul style="list-style-type: none">算定ワークショップの実施	

モデル事業